

ナショナルバイオリソースプロジェクト
中核的拠点形成プログラム（オオムギ）平成28年度第一回運営委員会議事録

日時：平成28年5月13日（金） 13：30から17：00（16：00から施設見学）
場所：岡山大学資源植物科学研究所 本館 会議室

出席者：

課題管理者	佐藤 和広	岡山大学資源植物科学研究所
委員長	掛田 克行	三重大学生物資源学部
委員	小松田隆夫	農研機構・次世代作物開発研究センター
	柳沢 貴司	農研機構・次世代作物開発研究センター
	土門 英司	農研機構・遺伝資源センター
	加藤 常夫	栃木県農業試験場
	山崎 由紀子	国立遺伝学研究所
	辻本 壽	鳥取大学乾燥地研究センター
	加藤 鎌司	岡山大学農学部
	村田 稔	岡山大学資源植物科学研究所
	前川 雅彦	岡山大学資源植物科学研究所
	武田 真	岡山大学資源植物科学研究所
	最相 大輔	岡山大学資源植物科学研究所
	久野 裕	岡山大学資源植物科学研究所

オブザーバー	川本 祥子	国立遺伝学研究所
	深川 正夫	AMED バイオバンク事業部 基盤研究課

議事録

委員・オブザーバーによる自己紹介をした。

報告事項

平成27年度経過報告と平成28年度事業計画について

課題管理者より資料1（昨年度の変更交付決定通知書について）の説明があった。
課題管理者より資料2（今年度研究計画書について）の説明があった。
課題管理者より資料3（世界種子貯蔵庫への種子預託について）の説明があった。
課題管理者より資料4（寄託・譲渡関連様式について）の説明があった。
課題管理者より資料5（新規寄託系統について）の説明があった。

課題管理者より資料6、7（データベースの更新について）の説明があった。

村田委員 NBRP で提供予定のデータベースには、セントロメアのポジションが記載されているのか？

武田委員 現在の国際コンソシアムのデータベースでは、クロームの位置が各染色体の長腕か短腕の記載がある。それから推測しているのが現状。

最相委員 イネのようにFISHによる精密に決定したものは無いはず。

課題管理者 オオムギでは正確なセントロメアのポジションが決められていない。

辻本委員 染色体欠失系統等の情報は記載されているか？

課題管理者 今のところそのような情報は載せていない。その他、データベースに付加すべき情報に関して皆さんから意見をいただきたい。

山崎委員 オオムギの一部の委員には、コムギのデータベースワーキング（グループ）にオブザーバーとして参加してもらった。今後は、オオムギでもワーキンググループを作ることを考

えていただきたい。

課題管理者より資料 8（交付決定書について）の説明があった。
課題管理者より資料 9（NBRP 成果例について）の説明があった。
課題管理者より資料 10（成果報告シートについて）の説明があった。
課題管理者より資料 11（HP アクセス数について）の説明があった。

小松田委員 ジーンバンク（つくば）に保存されている種子の更新はどのようにするのか？
課題管理者 岡山大学で種子を更新し、ジーンバンクのものとリプレイスするつもりである。
加藤（常）委員 岡山大学で保存する系統リソースを入れ替えする場合の基準はどのように設定するのか？
課題管理者 在来品種など、再現できないものは将来的にも保存を継続する、交配集団のように再現可能で、需要があまりないものは廃棄してもよいと考えている。

協議事項

1. リソースのバックアップについて

課題管理者 世界種子貯蔵庫と生物研ジーンバンクにバックアップをお願いしている。まだバックアップの対象になっていないミュータントなどもあるが、どのようにしたら良いか委員からご意見いただきたい。

課題管理者と土門委員より参考 1（ジーンバンクのオオムギ遺伝資源概要）について説明があった。

課題管理者 現在バックアップしていない追加の系統がある場合、これまでのリソースの追加分としてお願いすることは可能か？

土門委員 現存のものに対する追加となると、農研機構本部との協議が必要となり、手続きが長引く可能性がある。とりあえず、今回は更新だけにしておいた方がよい。追加の分は、別のバッチ（新規）として、改めて手続きしてもらった方がよいと思う。
これから寄託方針等が決められる。例えば、寄託から 25 年経ったものはどうするのか（ジーンバンクのものになるのか）など。決まり次第お伝えする。

3. 名古屋議定書、ITPGR への対応について

課題管理者 先日、イネの前課題管理者である倉田先生より「NBRP では ITPGR に依らない方針となっているが、それで良いのか」という問いかけがあった。

辻本委員 NBRP で扱うものは研究のための材料なので、IPTGR に乗せる必要はないのではないかと思います。課金もされているので問題ないのでは。

土門委員 IPTGR でも、手続き上の手数料として最低限の課金が出る。自ら MLS に含めた材料については、第三者による再配布を阻止したい場合は、SMTA 以外の方法で配布することもできる。

前川委員 SMTA を交わした場合でも、相手側が MLS であると勝手に判断した場合、それを阻止するのは難しいのでは無いかな？

加藤（鎌）委員 外国から導入した在来品種に制限をかけるのは、道義的に難しいだろう。国際的には、IPTGR に乗せるのが正しいやり方だと思う。

4. 次期のプロジェクトの内容について

深川氏より資料 12（今後のバイオリソース整備の在り方について）の説明があった。

課題管理者 基幹的なバイオリソースと維持の必要なバイオリソースの 2 つに分けた場合に、モデル生物になり得るか考えると、オオムギは基幹的なバイオリソースではないと考えている。恐らく維持の必要なバイオリソースということになるだろう。また、ヒト研究・医療とどのように結びつけるかが問題。

深川氏 AMED に管轄が移ったといえども、NBRP では医療関連だけではなく他の生物も取り扱う。ただ NBRP でも医療関連の課題募集はありえる。また、動物リソースではゲノム編集で作

った変異体なども寄託してもらっている。

課題管理者 オオムギのリソースは分類2の維持に必要なバイオリソースになるだろうから、次期はそのように目標設定していく。次期は、BACのフィルターやESTクローンに変わるリソースが必要と考える。

2. 新規リソースについて

久野委員 オオムギのゲノム編集は、外来遺伝子のゲノムへの組み込みが伴い、組換え体として扱わなければならないので、次期リソースとしては難しいのでは無いか？

山崎委員・土門委員・最相委員 組換え体を配布しているグループもあるので、それは問題ないと思う。

加藤（鎌）委員 改変体（ミュータント）が作れるようなシステムは、オオムギでも作った方が良くと思う。

課題管理者 ゲノム編集もそうだが、シーケンス（NGS）解析技術、エピゲノムなども「今後のバイオリソース整備の在り方について」では触れられている。今のところ、ESTクローンは破棄しようと考えている。

辻本委員 退職者などから、使わなくなった研究材料を寄託してもらえば、これから実験系統リソースが増えると思う。その上で、ユーザーとしては「簡単に」実験が出来るようなものが欲しいと思うだろう。たくさんの書類手続きがあると簡単に実験が出来ない。リソースにアクセスしやすいシステムが必要。

村田委員 例えばクローン配布などは、DNAレベルなどにすれば、組換え体配布よりも手続きが簡単になる。

掛田委員長 380系統のコアコレクションは新規に寄託されたものか？

課題管理者 既存のもので、国際大麦コアコレクションの東南アジアのサブコレクションである。SV（Standard Variety）はそれとは別のサンプルとなる。

その他

掛田委員長 運営委員会の在り方については、これでよいか？

課題管理者 委員の追加（入れ替え）も考え無ければならない。持田氏は来年から参加してもらえよう打診する。

村田委員 世界的に見て、各データベースが閉鎖したり閲覧に新たに制限を設けたりしているようだ。国内データベースもこのような方向で、縮小したり閲覧制限を設けたりする風潮なのか？

土門委員 国内データベースだとサイバー攻撃によって一時閉鎖した事例がある。サーバー管理者の異動などによって一時閉鎖している場合もある。

以上（記録、久野委員、文責課題管理者）